

米軍基地環境カルテ

慶佐次通信所（施設番号：FAC6007）

平成 29 年 3 月

沖 縄 県

目 次

6. 慶佐次通信所（施設番号：FAC6007）	6-1
6.1 基本情報	6-1
6.1.1 名称	6-1
6.1.2 所在地、広さ（施設面積）	6-1
6.1.3 施設の概要等	6-2
6.1.4 施設の管理及び用途	6-2
6.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	6-2
6.1.6 土地利用規制図	6-2
6.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	6-2
6.2.1 基地等の土地の状況	6-2
6.2.1.1 地形分類図	6-2
6.2.1.2 表層地質図	6-2
6.2.1.3 土壌図	6-2
6.2.1.4 切盛土分布図	6-2
6.2.2 基地内の施設の使用状況	6-3
6.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	6-3
6.2.2.2 施設等使用履歴	6-3
6.3 基地等の環境状況	6-4
6.3.1 自然環境（植物）	6-4
6.3.1.1 現存植生図	6-4
6.3.1.2 植生自然度図	6-4
6.3.1.3 特定植物群落	6-4
6.3.1.4 重要な種、貴重な種等	6-4
6.3.2 自然環境（動物）	6-5
6.3.2.1 重要な種、貴重な種等	6-5
6.3.3 水利用状況	6-5
6.3.3.1 水利用状況	6-5
6.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	6-6
6.3.3.3 河川及びダムの分布状況	6-7
6.3.4 地下水の状況	6-7
6.3.4.1 地下水基盤面等高線図	6-7
6.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	6-8
6.4.1 事故等の概要	6-8
6.4.2 事故等発生場所	6-8
6.5 環境調査を実施する場合の留意事項	6-8
6.6 その他情報	6-8

6.7 環境等に関する通常監視について	6-8
---------------------------	-----

6. 慶佐次通信所（施設番号：FAC6007）

6.1 基本情報

6.1.1 名称

慶佐次通信所（施設番号：FAC6007）

6.1.2 所在地、広さ（施設面積）

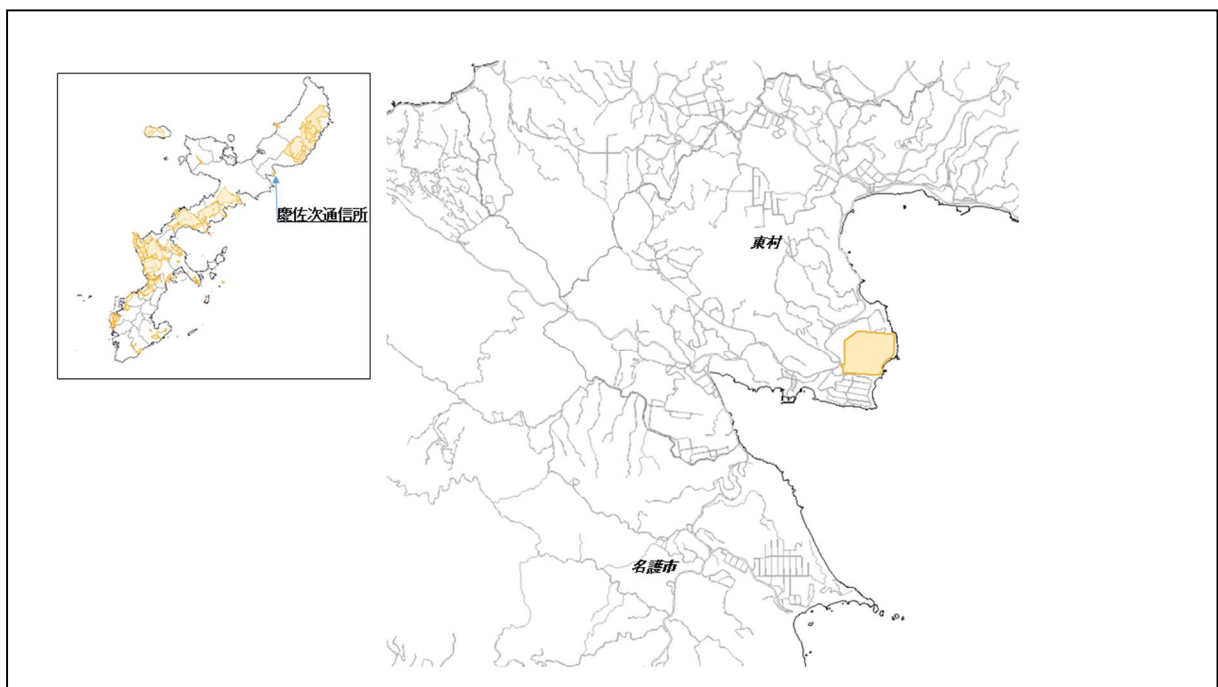
<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：東村字慶佐次

広 さ：約 574,700 m²

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

(http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf) を参照



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

図 6-1 慶佐次通信所の位置図（昭和 47 年時）及び航空写真

6.1.3 施設の概要等

平成 27 年 2 月 27 日、全部返還。

6.1.4 施設の管理及び用途

平成 27 年 2 月 27 日、全部返還。

6.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

米軍の船舶や航空機に対する位置確認のための長距離通信所ロラン（Long Range Navigation 遠距離航法）C 局の基地として使用されていたが、平成 5 年 7 月 1 日に、海上保安庁（第 11 管区海上保安本部）に機能移管され、平成 7 年 3 月 31 日には施設・区域の大部分（約 55 ヘクタール）が返還され、海上保安庁が引き継いで使用していた。

残りの部分（約 1 ヘクタール）は、沖縄本島と本土の間の光ファイバーによる通信網の中継施設（無人）として使用されていたが、平成 27 年 2 月 27 日に返還された。

平成 28 年 4 月 1 日に地権者（東村慶佐次区）に土地が引き渡され、慶佐次区では跡地利用を推進している。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、

沖縄県ホームページ「FAC6007 慶佐次通信所」

（<http://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kichitai/1182.html>、平成 29 年 1 月 26 日閲覧）、

沖縄防衛局ホームページ「広報誌はいさい 平成 28 年 5 月 1 日 第 163 号」

（<http://www.mod.go.jp/rdb/okinawa/05haisai/h28/pdf/163.pdf>）を参照

6.1.6 土地利用規制図

慶佐次通信所跡地及び周辺の土地利用規制図を図面集「土地利用規制図 A」に示す。

6.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

6.2.1 基地等の土地の状況

6.2.1.1 地形分類図

慶佐次通信所跡地及び周辺の地形分類図を図面集「地形分類図 A」に示す。

6.2.1.2 表層地質図

慶佐次通信所跡地及び周辺の表層地質図を図面集「表層地質図 A」に示す。

6.2.1.3 土壌図

慶佐次通信所跡地及び周辺の土壌図を図面集「土壌図 A」に示す。

6.2.1.4 切盛土分布図

慶佐次通信所の切盛土分布図は作成されていない。

6.2.2 基地内の施設の使用状況

6.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

慶佐次通信所の施設配置図は確認できなかった。

6.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 37 年 10 月 15 日	米軍（沿岸警備隊）により使用開始。
昭和 47 年 5 月 15 日	「慶佐次ロラン A・C 送信所」が「慶佐次通信所」として提供開始（使用主目的：通信所）。
昭和 52 年 11 月 4 日	第 11 管区海上保安本部が、電波航路標識施設整備のための用地として約 61,400 m ² を共同使用。
昭和 53 年 2 月 1 日	第 11 管区海上保安本部が、ロラン A 業務を米軍から引き継ぐ。
昭和 59 年 10 月 5 日	A C M I 海底ケーブルの敷設及び運用のため、水域約 9,000 m ² を追加提供。
平成 3 年 7 月	米軍の日本本土の通信システムと沖縄の通信システムを光ファイバーにより接続するため、長崎県佐世保基地と慶佐次通信所間 830 km に、海底ケーブルを敷設。
平成 4 年 1 月 31 日	污水处理施設として、工作物（浄化装置）を追加提供。
平成 5 年 7 月 1 日	污水处理施設として、約 29,000 m ² を返還。
〃	海上保安庁がロラン C 施設を共同使用（土地約 358,700 m ² 、工作物一式）し、運用を引き継ぐ。
平成 7 年 3 月 31 日	海上保安庁が引き続きロラン C 施設及び A 施設として使用するため、土地約 548,000 m ² と水域約 30,000 m ² を返還。
平成 7 年 4 月 1 日	施設管理権が、海軍（沿岸警備隊）から陸軍へ移管。
平成 7 年 9 月 30 日	水域の一部（次の 2 点を最短で結ぶ線の両側 100m 以内の区域 (1) 北緯 26 度 35 分 42 秒、東経 128 度 17 分 42 秒 (2) 北緯 26 度 43 分 24 秒、東経 128 度 34 分 12 秒）を返還。
平成 27 年 2 月 27 日	残りの部分（約 1 ヘクタール、沖縄本島と本土の間の光ファイバーによる通信網の中継施設（無人））を返還。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、
 沖縄県ホームページ「FAC6007 慶佐次通信所」
 （<http://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kichitai/1182.html>、平成 29 年 1 月 26 日閲覧）を参照

<主要建物及び工作物>

建 物：－

工作物：通信鉄塔、よう壁、下水、等

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

6.3 基地等の環境状況

6.3.1 自然環境（植物）

6.3.1.1 現存植生図

慶佐次通信所跡地及び周辺の現存植生図を図面集「現存植生図A」に示す。

6.3.1.2 植生自然度図

慶佐次通信所跡地及び周辺の植生自然度図を図面集「植生自然度図A」に示す。

6.3.1.3 特定植物群落

慶佐次通信所跡地及び周辺の特定植物群落を表 6-1 に示す。慶佐次通信所跡地及び周辺の特定植物群落として「東村慶佐次川のマングローブ」がある。

表 6-1 慶佐次通信所跡地及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	東村慶佐次川のマングローブ	D, H	マングローブ林	国指定天然記念物

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

6.3.1.4 重要な種、貴重な種等

慶佐次通信所跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）を表 6-2 に示す。慶佐次通信所跡地及び周辺の国指定天然記念物として「慶佐次湾のヒルギ林」がある。

表 6-2 慶佐次通信所跡地及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）

No.	名称	所在地	区分
1	慶佐次湾のヒルギ林	東村字慶佐次港原	国指定天然記念物

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

6.3.2 自然環境（動物）

6.3.2.1 重要な種、貴重な種等

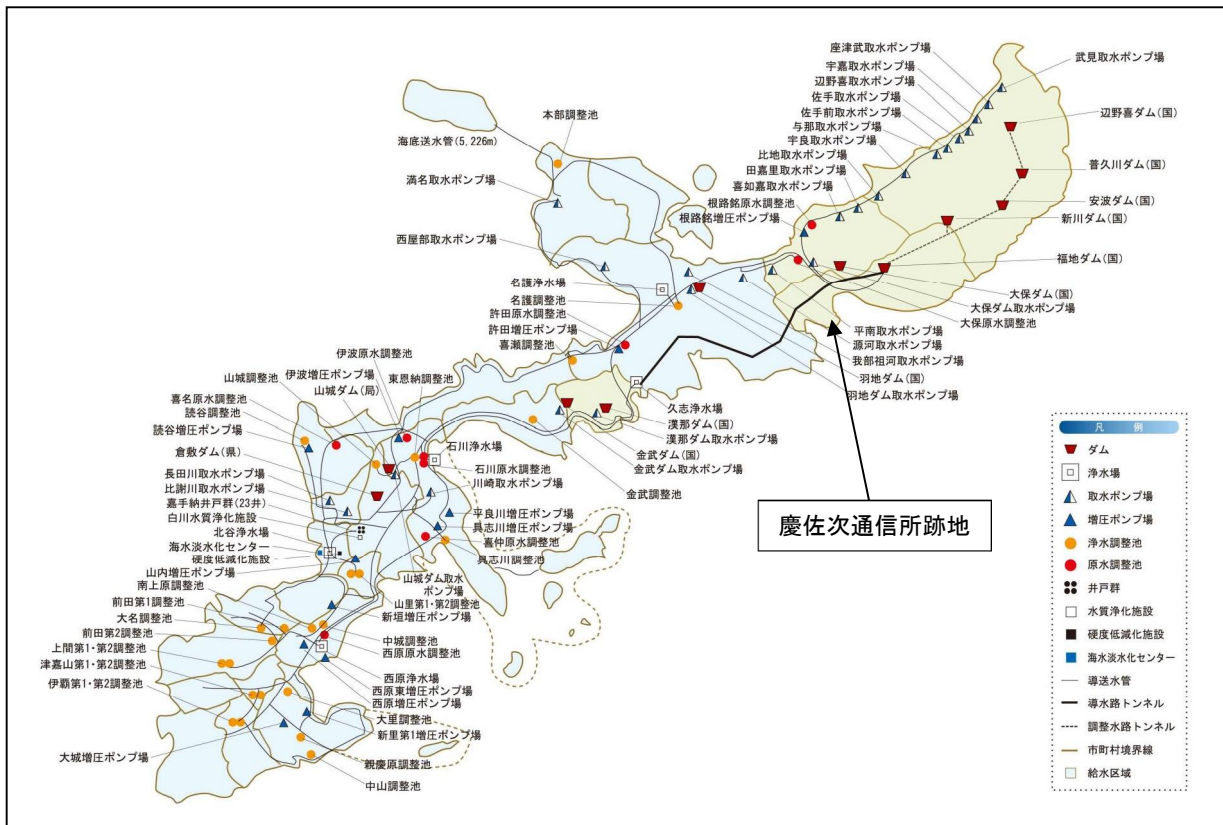
慶佐次通信所跡地のある東村で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は40種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針〔沖縄島編〕」（平成10年2月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照

6.3.3 水利用状況

6.3.3.1 水利用状況

沖縄県企業局による、沖縄島及び周辺の水利用状況を図6-2に示す。

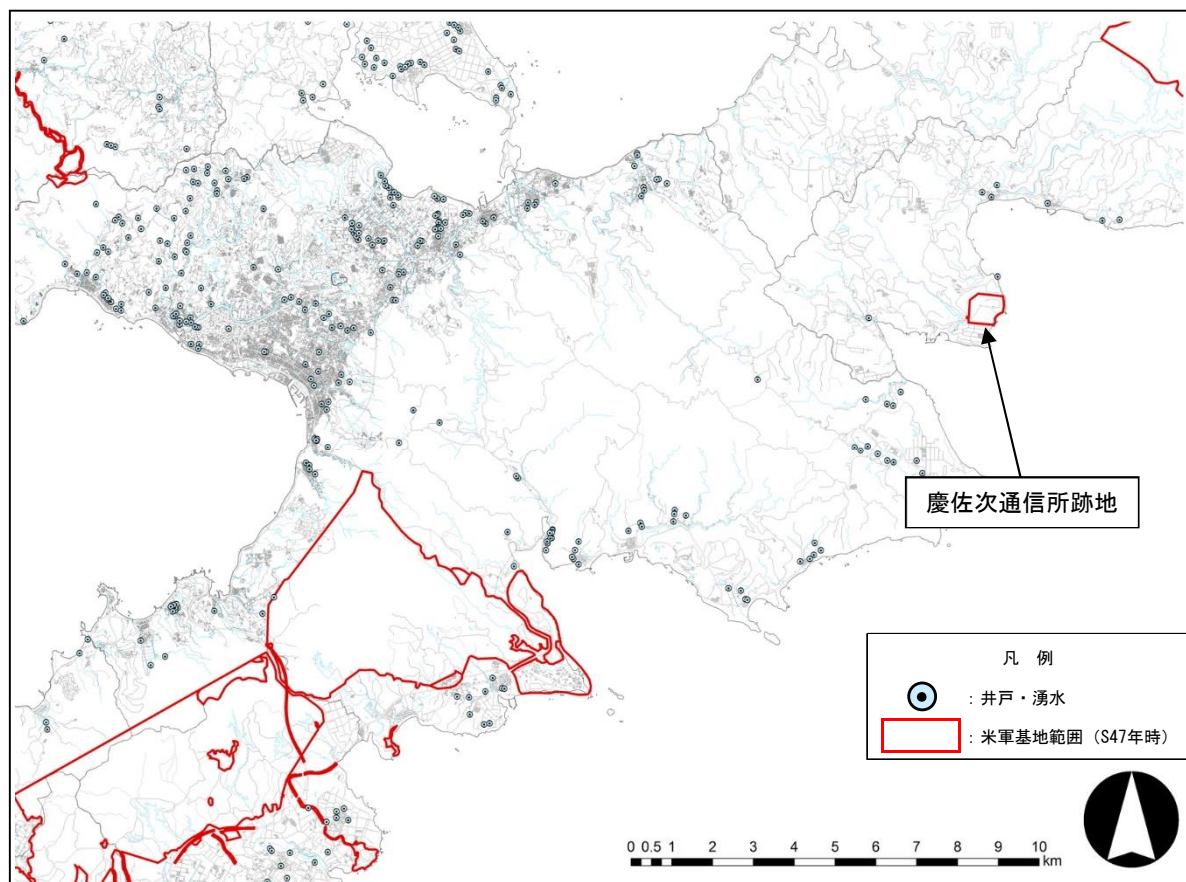


出典：「2015＜平成26年度決算版＞ 環境報告書」（平成28年3月、沖縄県企業局配水管理課）を参照

図6-2 沖縄島及び周辺の水利用状況

6.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

慶佐次通信所跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 6-3 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、第 269 号）」

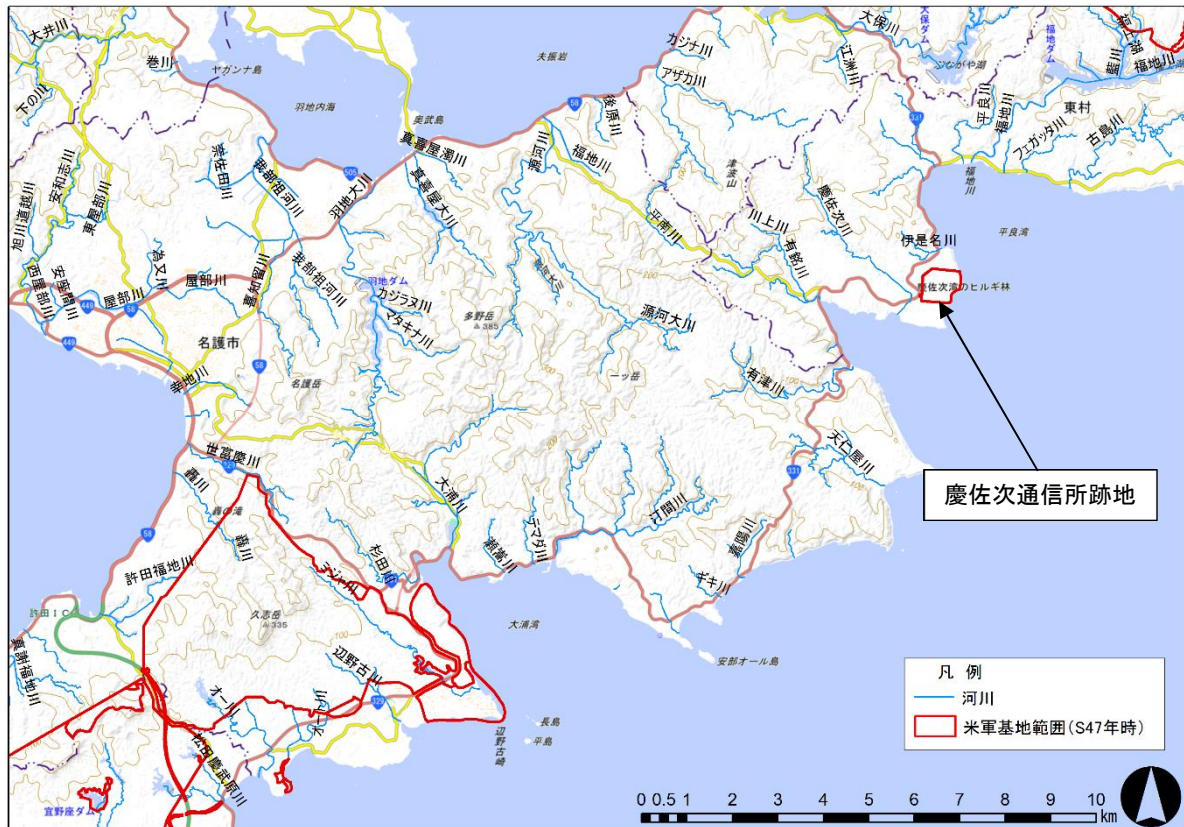
注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 6-3 慶佐次通信所跡地及び周辺の井戸・湧水分布状況

6.3.3.3 河川及びダムの分布状況

慶佐次通信所跡地及び周辺の河川、ダム分布状況を図 6-4 に示す。慶佐次通信所跡地及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成 29 年 3 月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、
「沖縄の米軍基地関係資料（地位協定に基づく提供施設）」（昭和 47 年 11 月、沖縄県総務部）、
「返還軍用地の施設別概要」（昭和 53 年 3 月、沖縄県企画調整部）を参照

図 6-4 慶佐次通信所跡地及び周辺の河川、ダム分布状況

6.3.4 地下水の状況

6.3.4.1 地下水基盤面等高線図

慶佐次通信所跡地及び周辺の地下水基盤面等高線図は作成されていない。

6.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

6.4.1 事故等の概要

慶佐次通信所及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の概要を表 6-3 に示す。慶佐次通信所及び周辺では、昭和 50 年 3 月頃まで、同通信所からの雨水流入により、周囲の水田に赤土が堆積する農耕被害の報告があった。

表 6-3 慶佐次通信所及び周辺における環境関連事故等の概要

発生年 月日	発生場所	概要	備考
昭和 38 年～ 昭和 50 年 3 月頃まで	東村（慶佐次）	施設建設の際に、水田の保水源であった樹草木類を伐除して敷き均したため保水力が低下し、降雨時に同通信所から雨水が流入し、そのため赤土が堆積して廃田の状態で休耕を余儀なくされた。	農耕被害

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）を参照

6.4.2 事故等発生場所

慶佐次通信所及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

6.5 環境調査を実施する場合の留意事項

特になし。

6.6 その他情報

特になし。

6.7 環境等に関する通常監視について

慶佐次通信所及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていなかった。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照

